

日本学術会議第 24 期史学委員会
歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会
第 5 回議事要旨

1. 日時 令和元年（2019）11 月 29 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分
2. 会場 日本学術会議 6-4（1）およびロビー・地下書庫・4 階国会図書館支部
3. 出席者 栗田禎子、若尾政希、大友一雄、倉員正江、高埜利彦、芳賀満、柳原敏昭
4. 議題

(1) 前回議事要旨の確認

提案通り確認された。

(2) 日本学術会議資料について

本議題に関わり会議の冒頭に、当分科会が中心となって企画提案し、日本学術会議ロビーで開催される創立 70 周年記念展示「日本学術会議の設立と組織の変遷—地下書庫アーカイブズの世界—」（会期：2019 年 10 月 1 日～11 月 29 日、主催：日本学術会議、企画協力：日本学術会議史学委員会、科学研究費「日本の学術体制史研究—研究基盤となる日本学術会議資料整備と研究環境構築の研究—」グループ）および地下書庫・4 階国会図書館支部を視察した。

また、地下書庫の学術会議記録の保存・管理・公開するため課題について協議し、その歴史的価値に鑑み適切な取り扱いが望まれること、調査・目録作成および展示の取り組みの経緯などとともに、日本学術会議「報告」としてまとめることになった。

協議において示された諸点は次の通りである。

<展示について>

- ・日本学術会議創立 70 周年記念展示では、展示解説「日本学術会議の成立と組織変遷—地下書庫アーカイブズの世界—」が作成され、記録の存在とともにその重要性を、総会などへの出席者にも広く伝えることができた。また、保存管理について賛同する意見が多く寄せられた（アンケートは準備できなかった）。

<環境について>

- ・当初、地下書庫では空調がとまり、水漏れもあり、カビなどが大量に発生していた。
- ・現在、温湿度など環境情報の集約に努めると同時に、空調用の扇風機を暫定的に導入してカビの発生を防いでいるが、学術的な価値に鑑みても抜本的な対策が必要である。
- ・記録目録の整備は、保存管理のための基本情報として、また、広く理解を得るためにも欠かせない。

<記録類について>

- ・学術会議第 1～15 期の記録が存在する。15 期からもすでに 30 年以上経過しており、アーカイブズとして全点保存されるべきである。
- ・現在、学術会議で作成される記録類のうち歴史資料として重要な公文書等は、国立公文書館に移管されており、移管から外れていた地下書庫の第 1 期からの記録類も遡って国立公文書館に全点移管されるべきである。
- ・16 期から現在より 10 年前までの分の所在は未確認である。
- ・本件は、学術会議全体、また事務局の判断が重要となるため、理解を求める取り組みが不可欠となる。
- ・なお、4 階にある国会図書館支部が速記録などを保存・公開しており、候補の一つとして期待されるが、公文書に関わる問題であり、権限を逸脱するため受け入れは不可能とのことである。

(3) 公文書の保存・公開と管理について

「提言」または「報告」としてまとめるどうか検討を行い、国立公文書館が準備を進め次年度導入が予定されている認証アーキビストの制度的社会的な評価や、公文書館法附則第 2 項の撤廃なども含めたまとめが必要であり、来期の早い段階から準備することが適当とされた。

(4) その他

- ・提言・報告の発表では、社会的反響が重要とされており、自らの働きかけとインパクト・レポート

トの提出が必要となることが確認された。

- 10月の各地の台風被害について紹介と問題点の指摘があった。また、被害を機に信州資料ネットが設立されたことが紹介された。